

大学はどく

大競争時代

▶4◀

「講義は、なるべくしたや授業をしても教育効果は上がらない」と宇佐美教授

受け身の学生変える

「講義は、なるべくしたや授業をしても教育効果は上がらない」と宇佐美教授は説明する。

千葉大教育学部の後期科目「道徳教育」の二回目の授業。宇佐美寛教授は、こうした書き出しで始まる授業を進め方をまとめたプリントを学生に配った。

一方的に話す「講義」は

「きちんとした文章が書けない。教科書に載っているから」と、谷崎潤一郎を知らない。そんな若者が大勢大学に入ってくる。中央大商学部の古本耕三学部

長補佐も学生の基礎学力に危うさを感じている。

回。教科書とは別に十冊以上の課題図書もある。

「学生の受け身の姿勢をただし、最近、低下が目立つ文章表現力や知識量を補う工夫をしなければ、もはや育をするには欠かせない」

入試合格者を対象に通信添削による「入学前講座」を始める。北村敬子学部長は「自分たちが考える学部教育をするには欠かせない」

と言いつける。講座では、新聞記事などを教材に文章の書き方や図書館の利用法などを指導。最終目標は入学前に「新書」を読めるようにすることだ。

一方、ある私立大の学生課長は「小手先の補習に頼

るだけでは限界がある」と話す。低下が指摘される学力や学習意欲、あいまなどを指導。最終目標は入学前に「新書」を読めるようにすることだ。

一方、ある私立大の学生課長は「小手先の補習に頼

「認定を厳しくするよう求めた昨秋の大学審議会答申を先取りしたものと言える。大学が直面する課題は、東

京大をはじめ六校に「講義の攻略法」と題した講座を通じて、学ぶ技術」の習得支援も始めた。

メラ。後の席には他大学から参観に来た教官の姿も見える。京都大高等教育教授システム開発センターが四年前から進めている公開実験授業の光景だ。講義内容と学生の集中度を調べ、効果的な講義方法を研究する。

これまでに具体的なエピソードを交えた方が反応が良いことなどが確認されたが、それだけで授業効果は上がるわけではない。三年間、授業を担当した田中毎

兵庫県三木市。開校二年目の関西国際大は、厳格な

課題もある。浜名篤教授は「成績の悪い学生ほど学

習支援センターを利用しない。『大学は息抜きの場所』と考える学生にはこうした指導は歓迎されないよう

学ぶ技術から指導



成績評価(GP A)と徹底した学習指導に大学全体で取り組んでいる。高校レベルの英語や数学などを教える「学習支援セン

「ビデオカメラで学生の反応を記録(京都市左京区の京都大学)

大学や学部あげての新たな取り組みは、個々の教官に任せられることが多かった授業手法にも及ぶ。八十人余りの学生の様子をとらえる三台のビデオカ

入試で学生の質を管理する時代は過ぎ去ろうとしている。多様化する学生の資質や意欲に大学はどう対応するのか。まだ出ぬ答えを求めて、教育内容の問い直しは続く。

入試で学生の質を管理する時代は過ぎ去ろうとしている。多様化する学生の資質や意欲に大学はどう対応するのか。まだ出ぬ答えを求めて、教育内容の問い直しは続く。